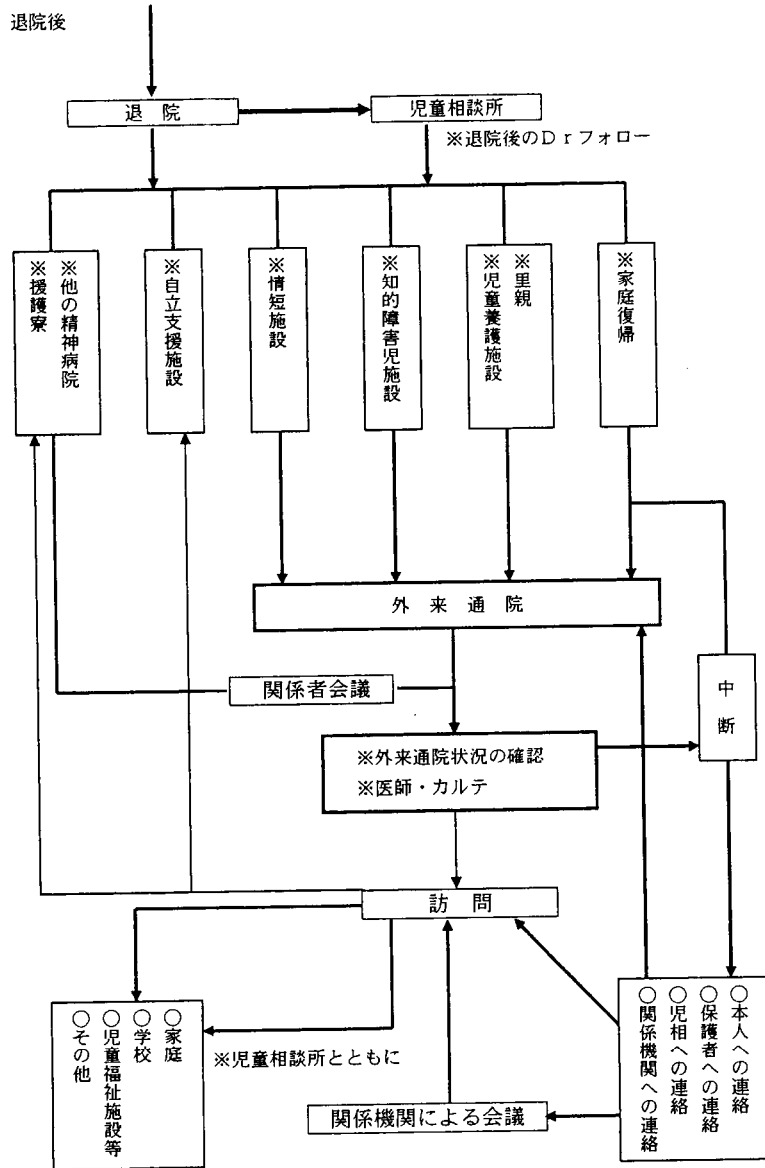


4. 退院後



9 研究活動

1995年度

【学会発表】

- 1 第36回日本児童青年精神医学会, 1995年11月3日, 岡山市
 - ・児童青年精神科医療施設における事故について(第1報) - 無断離院の検討 - : 清水将之、松浦ます代、西田寿美
 - ・児童青年精神科医学施設における事故について(第2報) - 院内事故の検討 - : 松浦ます代、西田寿美、清水将之
 - ・児童精神科治療施設における保母の役割(第2報) - 躰けの検討 - : 中村みゆき、吉田芳子、正木淑子
 - ・『児童の権利に関する条約』を児童青年精神科医療施設においてどう受け止めるか: 國枝晃、高橋雅士、山下亨 他
 - ・発達障害児の系統的療育について: 都築健永、栗田弘二、高山学 他
 - ・小学生の登校拒否児の外来治療: 小西眞行
- 2 第42回日本矯正学会特別講演, 1995年4月10日 愛知県産業貿易館(名古屋市)
 - ・思春期精神障害を巡る諸問題: 清水将之
- 3 第91回日本精神神経学会特別シンポジウム, 1995年5月17日, 長崎市
 - ・災害と児童精神科医療: 清水将之、井出浩
- 4 第147回東海精神神経学会, 1995年7月1日, 名古屋吹上ホール
 - ・阪神大震災と児童精神医学: 清水将之、高山学
- 5 第2回国際サイコオンコロジー会議シンポジウム 1995年10月19日, 神戸国際会議場
 - ・人間が生きる条件とは - 震災被災者の心の支援から - : 清水将之
- 6 第148回東海精神神経学会特別講演, 1995年12月2日, 浜松市
 - ・子供の災害精神医学: 清水将之
- 7 第20回日本精神科看護学会, 1995.5.24~5.26 千葉市
 - ・気持ちを受け止める看護の関わりについての一案 - 信頼関係をきづく中で放尿がなくなったM子への関わり - : 北峯礼子
- 8 日本精神科看護学会 思春期・青年期精神科看護, 1995.11.29~11.30, 宮崎市
 - ・自閉症の多飲行動を考える - 実態調査を通しての検討 - : 樋口尚子
 - ・言葉による集団療法を試みて: 堀勝也
- 9 日精看三重県支部看護研究発表会, 1995.12.8, 鈴鹿市
 - ・集団不適応状態をきたしたアスペルガー症候群児への援助 - 患児の支えとなるキーパースンの重要性を考える - : 倉田みゆき、細野弓子
- 10 第26回全国児童青年精神科施設協議会研修会, 1996.2.14~2.16, 津市
 - ・入院治療における遊びについて: 大西信行 外
11. 三重県看護協会看護研究発表会, 1995.5.18, 津市
 - ・行動異常児の対人関係調整への援助 - プロセスレコードを使っての行動分析 - : 小河内真理

【研究論文】

- 1 清水將之：精神科医は養護教諭に何を期待しているか。児童医誌, 35;519-522, 1995.
- 2 清水將之、井出浩：災害時における児童精神科の初期対応について。児童医誌, 35, 540-544, 1995
- 3 高山学、清水將之：精神科治療から見た青年期。精神科治療学第10巻増刊号, p. 260-262, 1995.
- 4 清水將之：離人・現実感喪失症候群, 精神科治療学増刊号, p. 179-180, 1995.
- 5 三宅芳宏、執行弘幸、清水將之：大型災害時において児童施設は何を体験したか。児童医誌, 36;297- 307, 1995
- 6 清水將之、井出浩：災害と児童精神医学。精神誌, 97;1119-1123, 1995.
- 7 井出浩、清水將之：子どもの災害精神医学序説—子どものPTSDをどう捉えるか—精神科治療学, 11;227-231, 1996
- 8 小西眞行 他：自閉症児の系統的療育に関する研究。安田生命社会事業団研究助成論文集30(1). 1995

【単行本】

- 1 清水將之：ライフサイクルとうつ病—青年期の症例—木村敏・井上令一（編）『躁うつ病1』p226-237, 中山書店, 東京, 1995.
- 2 清水將之（編集）：『あすなろの10年』, (非売品), 1995.
- 3 清水將之：青年期治療の始まり。青木省三・清水將之編『青年期の精神医学,』金剛出版, 東京 p. 193-201-1995
- 4 岡田和史：家族療育マニュアル理論編マニュアル編。野田文隆, 蜂矢英彦編『誰にもできる精神科リハビリテーション』星和書店, 東京, 1995.

【啓発論文等】

- 1 清水將之：ボーダーレス時代のボーダーライン。こころの科学, 60;122-127, 1995.
- 2 清水將之：阪神大震災と子ども。まいんど, 10(6);30-31, 1995.
- 3 清水將之：地震の話。安の津医報, 381;9-10, 1995.
- 4 清水將之：1995年1月17日のレクイエム。こころの科学, 61;97-103, 1995.
- 5 清水將之、井出浩：大型災害と児童の精神保健—PTSDはどのように現れるか—日精協誌, 4;83-87, 1995.
- 6 清水將之：生活の場としての学校。こころの科学, 62;128-133, 1995.
- 7 清水將之：緊張しやすい青年への対応。日本医事新報, 3716;136-137, 1995.
- 8 清水將之：からだの変化—自己臭の話—こころの科学, 62;128-133, 1995.
- 9 清水將之：震災が子どもの心に与える影響とその援助。三重県保険医新聞, 260;3-4, 1995.
- 10 清水將之：子どものこころと養護教諭。こころの科学, 64;18-21, 1995.
- 11 清水將之：おとなになるということ。こころの科学, 64;110-115, 1995
- 12 清水將之：小西眞行, 西田寿美他：あすなろ学園、その10年の歩み。こころの臨床ア・ラ・カルト, 14;227-262, 1995.
- 13 清水將之：思春期のこころ。こころの健康No.27, p. 1-2, 1995.
- 14 清水將之：大型災害時における子どもの精神保険援助について。名古屋市立大学医学部同窓会会報64;8-9, 1995.

- 15 清水將之：慢性疲労症候群-1。Scope, 34(11);10-11, 1995.
- 16 清水將之：慢性疲労症候群-2。Scope, 34(12);10-11, 1995.
- 17 清水將之：災害と子どものこころ。看護実践の科学, 21(1)93-96, 1996.
- 18 清水將之：1年という時の流れ—阪神淡路大震災後の四季—こころの科学, 65;91-96, 1995.
- 19 清水將之：災害と家族。障害児教育実践研究, 第26;1, 1995.
- 20 清水將之：子どもと災害。名古屋いのちの電話機関誌第34号, p. 3, 1996.
- 21 清水將之：性の輝きと牙。こころの科学, 66;75-80, 1996.
- 22 清水將之：災害と子どものこころ—阪神大震災の経験から。香川精神保健, 32号 17-35, 1996
- 23 後藤栄一：自閉症児施設の現状と今後。療育の窓, 92.27-30, 1995.
- 24 都築健永：阪神大震災について思う。小児保健三重16, 2-3, 1995
- 25 中村みゆき：書評 学習障害と幼児教育。児青医誌, 36(1);87-92, 1995
- 26 小西眞行：場面緘黙。健康教室. 46(17);44-47, 1995.

1996年度

【学会発表】

- 1 第92回日本精神神経学会シンポジウム、1996年5月24日、札幌市。
・子どもの災害精神医学—これからどう展開するか—：清水將之、井出浩
- 2 第21回日本精神科看護学会、1996年5月28日～30日、青森市
・集団不適応状態を来したアスペルガー症候群児への援助—患児の支えとなるキーパーソンの重要性を考える—：細野弓子、倉田みゆき
- 3 第30回富山県小児保健学会特別講演。1996年10月6日、富山安田生命ホール
・思春期のこころを支える：清水將之
- 4 第37回日本児童青年精神医学会、1996年10月31日～11月1日、山形市
・学校への不適当を主訴とする入院者の変化：岡田和史、西田寿美、国枝晃、都築健永、森下清美、清水將之
・児童精神科医療施設における保母の役割（第3報）—外来治療保育—：吉田芳子、平嶋摂子、堀真貴子、清水將之
・精神疾患の親を持つ子どもの入院治療について：西田寿美、清水將之
・院内事故の研究（第3報）事故の背後にあるメッセージ性について：松浦ます代、西田寿美、清水將之
・阪神・淡路大震災による児童・生徒に対する心理的影響の報告：菅原圭悟、石坂好樹、清水將之、杉浦康夫、長尾圭造、花田雅憲
・神戸市児童相談所が阪神大震災後に行った相談事業について：清水將之、井出浩
- 5 日本精神科看護学会・思春期青年期精神科看護、1996年11月28日～29日、奈良市
・二次障害を起こした学習障害児への関わり—事例に適合した対応をとる必要性を考える—：表口清美
- 6 第25回日精協精神医学会公開講座、1997年2月6日、幕張
・災害と児童生徒のメンタルヘルス：清水將之
- 7 第27回全国児童青年精神科医療施設研修会。1997年2月12日～14日、北海道
・思春期と性—混合病棟の意味を考える—：山本照代、濱口達也、表口清美

【単行本】

- 1 Shimizu, M.: Nosological Constellation of School Refusal Syndrome. In: Shimizu, M. (Ed.): Recent Progress in child and Adolescent Psychiatry, p. 109-114, Springer, Tokyo, 1996
- 2 清水将之: 思春期のころ, N H K ブックス, 1996.
- 3 清水将之: 子どもと大震災. 柳田邦男編「人間が生きる条件」, p. 45-84, 岩波書店, 東京, 1996.

【啓発論文等】

- 1 清水将之: 災害と子ども—神戸から考え始める (日本精神衛生会こころの健康シリーズNo.6), 日本精神衛生会, 1996
- 2 清水将之: 地震と子どものストレス障害. 月刊少年育成, 41(1): 8-16, 1966.
- 3 清水将之: 親と子, そして家族. こころの科学, 67;110-115, 1966.
- 4 清水将之: 思春期を考えることの意味 (付, いじめ等). こころの科学, 68;92-97, 1996.
- 5 清水将之: 児童青年期の災害精神医学. 日精協誌, 15(6);42-46, 1996
- 6 清水将之: 青年精神医学はいま, 若者に何ができるか こころの臨床ア・ラ・カルト, 15;147-151, 1996.
- 7 清水将之: 教師のストレス. 教育と医学, 44;616-622, 1996
- 8 清水将之: 子育てをたて直す術. きずな, 96年7月号 (三重県教委生涯教育課)
- 9 清水将之: 児童青年精神医学からみた修学旅行の意義. 日本医事新報, No.3773, p. 97-98, 1996.
- 10 清水将之: 少子化時代を生きる. 月刊Mie27号 p42, 1996.
- 11 清水将之: 子どものころを育てる—教育現場と精神保健との間—. 保健主事執務事例集第272-273 合併号, p. 9215-9218, (株)ぎようせい, 1996.
- 12 清水将之: 学校医と養護教諭の絆. 学校保健のひろば, 44 (9); 70-72, 1996.
- 13 清水将之: 青年期精神医学. アエラムック15号「精神医学がわかる」, p. 58-59, 1996.
- 14 清水将之: 学校という場所. 季刊仏教, 37;119-127, 1996
- 15 清水将之: 傷つくのは, 子どもにとっていいことか. 児童心理, 51 (1); 10-15, 1997.
- 16 清水将之: 家族と家庭—平均台上の片足起立—こころの科学, 72;27-30, 1997.
- 17 清水将之: 家庭内暴力への対応. こども未来, 2月号 p. 20-21, 1997.

【新聞原稿】

- | | | |
|-------------------|------|-------------|
| 1 清水将之: 伊勢のお国自慢 | 中日新聞 | 1996年7月11日 |
| 2 清水将之: 子どもの居場所 | 中日新聞 | 1996年8月6日 |
| 3 清水将之: 親と子 | 中日新聞 | 1996年9月1日 |
| 4 清水将之: 子どものかわいさ | 中日新聞 | 1996年9月26日 |
| 5 清水将之: 食べる | 中日新聞 | 1996年10月28日 |
| 6 清水将之: こころ豊かなくらし | 中日新聞 | 1996年12月8日 |
| 7 清水将之: 子どもの人権 | 中日新聞 | 1996年12月22日 |

1997年度

【学会発表】

- 1 第93回日本精神神経学会指定講演, 1997年5月29日, 東京
 - ・児童青年精神医学と一般精神医学: 清水将之
- 2 第151回東海精神神経学会1997年7月5日, 津市
 - ・児童青年精神科病院の新しい機能: 清水将之, 西田寿美, 栗木紀子
- 3 三重看護協会 1997年10月16日
 - ・拒食症児への援助指導 オレムの看護理論を活用して: 中村真由美
- 4 第38回日本児童青年精神医学会, 1997年11月7日~8日, 北九州市
 - ・児童青年精神科病院における地域連携事業 三重県立小児心療センターあすなろ学園の場合: 清水将之, 西田寿美
 - ・医療と教育の連携について: 田野礼子, 渡邊静代, 細野弓子, 中村みゆき, 石田芳久, 清水将之
 - ・児童精神医療施設における保母の役割 (第4報) —保母トレーニング事業について—: 前田ヤエ子, 中村みゆき, 松本功枝, 吉田芳子, 遠良美, 堀真喜子, 西田寿美, 清水将之
 - ・行動上の問題が大きい小学生の入院治療について: 岩田卓也, 西田寿美, 岡田和史, 清水将之
 - ・あすなろ学園における広汎性発達障害児の入院治療について: 北川裕美, 宮田君子, 市川裕子, 高木善啓, 中村みゆき, 谷口君代, 西田寿美
 - ・大震災が幼児に及ぼした心理的影響について—3歳児健診フォローアップから—: 大島 剛, 他11名, 清水将之
 - ・阪神淡路大震災が乳幼児に及ぼした心理的影響について—保育所聞き取り調査から—: 井出 浩, 他12名, 清水将之
 - ・家族の養育能力が低い子どもの入院看護について: 森下清美, 丸山慎子, 南部和枝, 細野弓子, 高木善啓, 古野まゆみ, 田中つま子, 松浦ます代
- 5 日本精神科看護学会思春期・青年期精神科看護, 1997年12月5日~6日
 - ・自傷及び衝動的破壊行動を呈する患者の看護—身体接触を伴う関わりを試みて: 樋口尚子, 福井富美子
 - ・外出, 外泊時に於ける患児の内服状況についての検討—アンケート調査を実施して—: 水野久美
 - ・長期入院を要した軽度発達遅滞を伴う場面緘黙児の看護—Y君の段階に合わせた看護を展開して—: 北峯礼子
- 6 日本精神科看護協会三重県支部, 1979年12月16日
 - ・外泊に不安を持つ患児の付添い外泊を試みて: 武田浩一
- 7 全国児童青年精神科医療施設研修会, 1998年2月18日~20日
 - ・いじめについて: 遠良美, 西田郁子, 樋口尚子, 大西信行

【研究論文】

- 1 清水将之, 井出浩: 子どもの災害精神医学—これからどう展開するか—. 精神経誌, 98; 765-770, 1996.
- 2 井出浩, 清水将之, 他16名: 大災害が幼児に及ぼした影響—保育所聞き取り調査から—. 児精医誌38:304-314, 1997.
- 3 大島剛, 清水将之, 他10名: 阪神大震災が乳幼児に及ぼした心理的影響につい

てー3歳児健診「こころの相談コーナー」における相談結果ー、児
精医誌、38;315-322,1997.

- 4 清水将之：児童青年精神医学と一般精神医学。精神経誌、99:771-780,1997.

【啓発論文等】

- 1 清水将之：被災した人たちから教わること。教育と医学、45:751-757,1997
- 2 清水将之：乳幼児精神医学という新しい道。こころの臨床ア・ラ・カルト、16;238-239,1997
- 3 清水将之：座談会司会『乳幼児精神医学』こころの臨床ア・ラ・カルト、16;241-268,1997.
- 4 清水将之：思春期の母子関係ー精神科臨床の経験よりー。母子保健情報、36;24-27,1997.
- 5 清水将之：子どものこころ、三重のこころ あすの三重、108;30-36,1998.
- 6 久保義和：自閉 基底にある障害の理解とその対応
実践障害児教育VOL.291,1997
- 7 久保義和：自閉 パニックと自傷行為の背後にあるもの
実践障害児教育VOL.292,1997
- 8 久保義和：自閉 こだわりへの理解とその対応
実践障害児教育VOL.293,1997

【放送】

- 1 NHKラジオ第1放送「おはようラジオセンター」(清水将之、月1回)
第1回 あすなる学園とはどんなところか
第2回 不登校について
第3回 拒食症の現在
第4回 保健室の大切さ
第5回 学習障害とは何か
第6回 思春期のうつ病
第7回 子どもと遊び
第8回 家庭内暴力
第9回 行為障害とはどんなものか
第10回 子どもと災害
第11回 子どもの権利
- 2 NHK ETV特集 「阪神大震災と子ども」 1998.1.18(清水将之)

1998年度

【学会発表】

- 1 Shimizu, M. & H. Ide: : Natural disaster and posttraumatic disorder in adolescents. 14th International Congress of IACAPAP. Aug. 6, 1998, Stockholm.
- 2 第4回児童虐待防止研究会基調講演、1998.9.19, 和歌山市
・被虐待児の育ちを考えるー児童精神医学の立場よりー：清水将之
- 3 第57回日本公衆衛生学会教育講演、1998.10.29, 岐阜市
・思春期のメンタルヘルスー地域社会でどう支えるか：清水将之

- 4 第39回日本児童青年精神医学会、1998.10.29~30
・適応指導教室の学校精神保健における効用：清水将之、都築健永、高山 学
・10歳未満発症の精神分裂病について：下山修司、村田潤哉、小西眞行、西田寿美、清水将之
・アスペルガー症候群の小学生の1例の入院治療について：岩田卓也、飯田由子、清水将之
・全児研27年の歴史からみたわが国の児童青年精神科医療：小西眞行、前山和子、清水将之
・地方自治体単位での自閉症早期発見の試み：前山和子、清水将之、西田寿美、下山修司、笠井洋子、都築健永
- 5 第38回日本心身医学会九州地方会。認定医特別講習会 教育講演。1999.2.20、鹿児島市
・社会・思春期・心身症：清水将之
- 6 第19回日本社会精神医学会シンポジウム、1999.3.4、福島市
・学校精神保健を考える：清水将之
- 7 第36回三重県小児保健学会シンポジウム。1999.3.7、津市
・子どものいのちー児童精神科の立場からー：清水将之
- 8 第23回日本精神科看護学会広島大会。1998.5.21、広島県
・外泊に不安を持つ患児の付き添い外泊を試みて：武田浩一、堀勝也
- 9 日精看思春期青年期看護学会、1998.11.26、熊本県
・思春期摂食障害の看護ークリティカル・パスを利用してー：柏木由美子、中山千代子
- 10 全国児童青年精神科医療施設研修会。1999.2.18、札幌
・病棟における家族援助を考える：米田英司、松末美奈子
- 11 三重県看護協会看護研究発表会。1998.10.8
・児童精神科看護におけるクリティカル・パスの有効性と問題点ー12歳児の脳炎症候群のケースからー：中原幸子

【研究論文】

- 1 清水将之：発達障害児の早期発見・早期療育のシステムの構築に関する研究。平成9年度厚生省障害福祉総合研究清水班報告書、pp.1-4-1998.
- 2 前山和子、西田寿美、下山修司、笠井洋子、前村みち代、都築健永、清水将之：広汎性発達障害児の早期発見システムに関する研究。平成9年度厚生省障害福祉総合研究清水班報告書、pp.18-31,1998
- 3 清水将之、村田潤哉：医療供給面からみた児童青年精神科。日精協雑誌、17(8);18-21,1998.
- 4 清水将之、谷口茂樹：少子化と学校精神保健。臨床精神医学1998年増刊号、95-100,1998.
- 5 細野弓子、下川恵子：フォーカスチャーティングとその実態ーナースデーター。日本総合研究所、1998年2月、3月、4月号

【単行本】

- 1 清水将之、岩田卓也：子どもの自殺。臨床精神医学講座第11巻、P231-237、中山書店、東京、1998
- 2 清水将之：災害と子どものストレス障害 (PTSD)。小児神経学の進歩第27

卷、P89-102, 1998

- 3 下山修司、清水將之：家族の崩壊。臨床精神医学講座第18巻、P53-62、中山書店、東京、1998

【啓発論文等】

- 1 清水將之：子どものころ、三重のころ。あすの三重、108;30-36, 1998.
- 2 清水將之：子どもの育ちを考える。四日市学校保健、32;2-3, 1998
- 3 清水將之：子どもの揺れに養護教諭はどう付き合うか。学校保健のひろば、9;38-41, 1998.
- 4 清水將之：不登校児のケア。学研（編）『話題の病気ファイル』、pp. 214, 1998.
- 5 清水將之：中学生の《荒唐》を防ぐ手だて。心と社会、93;5-7, 1998.
- 6 清水將之、青木省三、杉山登志郎：子どもと精神科医療。Psychiatric Bulletin, 1999年3月号

1999年度

【学会発表】

- 1 第40回日本児童青年精神医学会、1999.10.22、札幌市
 - ・被虐待児に対する精神科治療の場：清水將之、野田倫子、中村みゆき、前山和子
 - ・入院治療を行った被虐待児の1例：平嶋祺子、清水將之
 - ・あすなる学園における臨床心理の役割：上村文子、後藤栄一、伊藤裕通、国枝久美子、松井彰子、田野礼子、清水將之
 - ・ADHDに対するリタリンの使用状況：木村義則、山口文恵、清水將之
 - ・家族の養育能力が低い子どもの入院看護について（第2報）：森下清美、田中つまこ、清水將之
- 2 華民国児童青少年精神医学会、1999.11.6.高雄
 - ・震災後児童的心理復健：清水將之
- 3 日本精神科看護技術協会三重県支部、1999.12.14
 - ・発達課題と病状との関連についての一考察。－自分を変えたいというNさんの事例から－：下川恵子
 - ・思春期病棟に於ける看護師の役割－家庭内外で精神的外傷を体験した解離性障害児との関わりを通して－：米田英司

【研究論文】

- 1 清水將之：被虐待児に対する精神医学的治療の可能性に関する研究。厚生科学研究、子どもの家庭総合研究松井一郎班平成10年度報告書、pp. 28-31, 1999.
- 2 清水將之：被虐待児の『治療』を考える－児童精神医学の立場より－子どもの虐待とネグレクト、1;12-17, 1999.
- 3 清水將之：被虐待児に於ける親子－治療の下地としての親子関係－。保健の科学、41;593-597, 1999.
- 4 清水將之：児童精神科と学校精神保護。社会精神医学、8;149-152, 1999.
- 5 木村義則、清水將之：行為障害の入院治療。臨床精神医学、29;271-275, 2000
- 6 川合義典、中村真由美、浮田頼子：児童精神科におけるクリティカルパス－精神病圏・行為障害・摂食障害のパスを試みて－精神看護2000年1月

号 vol. 27 No.通巻88号、

【単行本】

- 1 清水將之：児童精神科臨床におけるインフォームド・コンセント。松下正明、他編、『インフォームド・コンセント・ガイドライン』、pp. 172-184先端医学社、東京、1999.
- 2 清水將之：（発達障害の）診断及び治療の技術。『発達障害白書2000』、28-32、日本文化科学社、東京、1999.
- 3 清水將之：予防精神医学からみた不登校。松下正明、他編『臨床精神医学講座S 3巻』、pp. 333-338, 中山書店、東京、2000.
- 4 清水將之、野田隆峰：子どものPTSD。松下正明、他編『臨床精神医学講座S 6巻』、pp. 215-220, 中山書店、東京、2000.

【啓発論文等】

- 1 清水將之：インフォームド・コンセント。『檜の里』第38号、1ページ、1999.
- 2 清水將之：日常臨床に役立つたとえ話。分裂病、うつ病、アスペルガー症候群、不登校。こころの臨床アラカルト、18;323, 1999.

2000年度

【学会発表】

- 1 第41回日本児童青年精神医学会、2000.10.26~27 津市
 - ・「21世紀の子どもへ」：会長講演 清水將之
 - ・「小学生病棟運営の可能性を探る」
 - －児童のダイナミクスを生かした病棟運営と保育士、指導員の役割－：鷺野千秋、前田ヤエ子、笠井洋子、野本利栄、前村みち代
 - －あそびを用いた集団指導を考える－：山下亨、鷺野千秋、山本照代、加納和美、市川裕子
 - －入院治療が有効であった多動男児の一例－：福沢章子、中村みゆき
 - ・地方自治体単位での自閉症児早期発見の試み（第2報）－1歳6ヵ月健診の場を用いて－：前山和子、清水將之、西田寿美、笠井洋子、都築健永
- 2 第35回発達障害児学会 2000.7.15 倉敷市
 - ・「発達障害児の視覚的構造化の指導」－スケジュールの視覚化について－：市川裕子、西田寿美、宮田君子、鷺野千秋、野本利栄、伊藤仁美、加納和美、堀真貴子
- 3 第6回日本子どもの虐待防止研究会 2000.12.8.名古屋市
 - ・いじめ・虐待・不登校：清水將之

【研究論文】

- 1 木村義則、清水將之：思春期のうつ病 小児科診療、64;52-55, 2001.
- 2 木村義則、清水將之：行為障害の入院治療、臨床精神医学、29; 271-275, 2000.
- 3 清水將之：児童精神科医療の現状と課題、日小医会報、19;13-17, 2000
- 4 清水將之：児童青年精神医学の課題－学校精神保健発展のために－東北児童青年精神医学会雑誌、1. 67-72, 2000.

【単行本】

- 1 清水將之、野田隆峰：思春期のこころとからだ、上里一郎 他編『メンタルヘルズ辞典』、137-145、同胞社、京都、2000
- 2 清水將之：予防精神医学からみた不登校、松下正明 他編『臨床精神医学講座第S3巻』、pp.333-338、中山書店、東京、2000.
- 3 清水將之、野田隆峰：子どものPTSD、松下正明 他編『臨床精神医学講座第S6巻』、pp.215-220、中山書店、東京、2000.
- 4 清水將之：災害と子ども、加藤伸勝 編『子どものメンタルヘルズ』、pp.71-75、日本精神衛生会、東京、2000.
- 5 清水將之：災害と子供のメンタルヘルズ、竹内哲夫他編『子供と青年の心の援助』、pp.110-123、ミネルヴァ書房、京都、2000.
- 6 清水將之：子ども臨床-21世紀に向けて、日本評論社、東京、2001.

【啓発論文等】

- 1 清水將之：椎名篤子 著『家族「外」家族』の解説、子どもの精神科医療を育てよう、集英社、東京、2000.
- 2 清水將之：児童精神科医療提供の現状、公衆衛生情報、30(6);15-17,2000
- 3 清水將之：家族の中の暴力、教育と医学、48;956-963,2000.
- 4 清水將之：子ども臨床を考える、こころの科学、94;12-16,2000.
- 5 清水將之：場違いな発言、岩崎学術通信、69;6-7,2000.
- 6 清水將之：児童精神科医療提供の現状、公衆衛生情報、30(6);15-17,2000.
- 7 清水將之：三重の子どもを護る術、真珠、48号、pp.41-46,2001.

2001年度

【学会発表】

- 1 第42回児童青年精神医学会、2001.11.24~26 石川県金沢市
 - ・自閉症児の入院治療の意味：林 順子、山本照代、笠井洋子、川上恭子、國枝晃、西田寿美
 - ・あすなろ学園での自閉症療育を振り返る～長期予後調査を通して～：木村義則、中村みゆき、吉田芳子、後藤栄一、西田寿美
 - ・被虐待児の児童精神科入院治療の果たす役割：西田寿美、鈴木 大、今井芳裕、増田伸子、野田倫子、上村文子、後藤栄一、國枝 晃、前田ヤエ子、倉田みゆき
 - ・小児科入院と母親への定期的面接で改善した心因性嘔吐の一症例について：山田敦朗
 - ・シンポジウム「注意欠陥・多動性障害」：西田寿美
- 2 第26回近畿児童青年精神保健懇話会・第8回大阪児童思春期精神保健研究会 2001.8.25；大阪府守口市
 - ・急性錯乱状態の母親の影響をうけ、精神病様症状を呈した発達障害女兒の一例：砂原千穂
- 3 第36回発達障害児学会 2001.7.14~15 茨城県筑波市
 - ・広汎性発達障害児治療システムの検証-幼児期に入院を必要とした事例-：吉田芳子、石田芳久、笠井洋子、栗野 泉
 - ・広汎性発達障害児の早期発見・早期教育 モデルシステム機能を検証する-幼

- 4 日本社会福祉士会全国大会・社会福祉学会 2001.6.1~2 広島県広島市
 - ・児童青年精神科医療施設における援助困難ケースの対応について：高橋 悟、中村みゆき、國枝 晃
- 5 全国医療保育研究大会 2001.6.9~10 神奈川県川崎市
 - ・児童精神科医療施設における保育士の専門性：中村みゆき
 - ・児童精神科病棟における集団遊び指導の実際：鷺野千秋、山下 亨
- 6 小児精神神経学会 2001.10.19~21 大分県
 - ・高機能広汎性発達障害の表情認知に関する研究：河邊真千子
- 7 第32回日本看護学会 2001.10.11~10.12 北海道
 - ・看護管理「A学園職員の職務満足度調査」：細野弓子、濱口達也、富永礼子、野田幸子
- 8 日本精神科看護協会 三重県支部研究発表会 2001.12.6 三重県津市(人権センター)
 - ・安全と安心の保障への関わりの有効性について-心理的虐待を受けたと思われる児の看護を通して-：池村淳子

【啓発論文等】

- 1 田原慎子：「バーンアウトについて」 県立病院看護職員『臨床看護』
- 2 木村義則、清水將之：児童・思春期症例のアセスメント
 - ～特別な配慮が必要な対象として～ 精神科臨床サービス、1:308-11,2001.
- 3 木村義則：清水將之：児童・思春期症例の治療計画の立て方
 - ～特別な配慮が必要な対象として～ 精神科臨床サービス、1:489-92,2001
- 4 木村義則：不登校と引きこもり こころの臨床ア・ラ・カルト 20-2:39-42,2001.
- 5 木村義則：行為障害の治療 臨床精神医学 30:593-7,2001.
- 6 木村義則：被虐待児の入浴治療において治療構造を揺さぶる家族への対応～法律の扱いを中心に～ こころの臨床ア・ラ・カルト 20-増刊号：128-30,2001.
- 7 清水將之：21世紀の子どもへ 児精医誌 42;85-103,2001.
- 8 清水將之：乳幼児と思春期のこころ 日医雑誌、125;532-536,2001.
- 9 清水將之、小林俊三：思春期自殺の現状と対策 日本医事新報N0,4020,p.98,2001
- 10 清水將之：思春期の精神保健と乳幼児期 別冊発達24号179-185,2001.
- 11 清水將之：子ども臨床 精神医学、43;468-469,2001
- 12 清水將之：子どもと自殺 少年育成、46(9);8-14,2001.
- 13 清水將之：虐待してしまいそうな不安 あけぼの、47(3);11,2001.
- 14 清水將之：子どもと災害-阪神・淡路大震災の日を迎えて 婦人之友、96(3);65-68,2002.

2002年度

【学会発表】

- 第43回 日本児童青年精神医学会 2002.11.27~29 東京都千代田区
・多動性行為障害のクリティカルパスの試み：山田敦朗、福沢章子、前田ヤエ子、西田寿美
・CDCを用いた被虐待児の経時的変化及び診断名別、種類別傾向：今井芳裕、西田寿美、増田伸子、前田ヤエ子、倉田みゆき、松末美奈子、野田倫子
・性的虐待児の治療を考えるー地域連携が有効に働いた一症例ー：中山千代子、西田寿美、今井芳裕、上村文子、野田倫子
- 第4回 2大学精神科フォーラム 2002.6.8 大阪府大阪市
・子どもの強迫性障害：砂原千穂
- 第6回日本医療保育学会 2002.6.22~23 東京都港区
・広汎性発達障害児の家族支援事業『子育てレッスン親クラス』を実施して：西田郁子
- 三重県地方自治研究集会 2002.7.5~6 三重県津市（総合文化センター）
・児童青年精神科医療の現状・三重県立小児心療センターあすなろ学園のレポートから：中村みゆき
- 第33回全国児童青年精神科医療施設協議会 2003.2.19~21. 新潟県長岡市
・高機能広汎性発達障害児の外来グループ療法の試み：中道寿実、山田敦朗、桂田孝二、川上恭子、猪野美春、岡村広志、吉田芳子、上村文子、中村みゆき、西田寿美
- 第33回日本看護学会「看護管理学会」2002.10.31~11.1 山梨県甲府市
・時代が求める看護管理を科学するー個人と組織を育むためにー：田原慎子、倉田みゆき
- 大阪小児科学会シンポジウム 2002.10.6 大阪府大阪市
・児童虐待防止システムをどう取り組むか：清水將之

【単行本】

- 清水將之：子どもの精神障害を考える 河合 洋・山登敬之 編 「子どもの精神障害」、日本評論社、2002.

【啓発論文等】

- 清水將之：児童虐待を考える Psychiatry Update, 2;2-4, 2002.
- 清水將之、平嶋摂子：児童虐待の1例 Psychiatry Update, 2;5, 2002.
- 清水將之：学校精神保健の役割 からだの科学、225;84-87, 2002
- 清水將之他：座談会「ひきこもり」日本社会精神医学会雑誌、10;269-297, 2002.
- 清水將之：書評「藤川洋子著、非行は語る」、児童青年精神医学、43, 348-350, 2002.
- 清水將之：「青い鳥症候群」の謎とその後ー転職の精神病理. Clinical Neurosciences, 20;1320-1321, 2002.

2003年度

【学会発表】

- 第44回児童青年精神医学会 2003.10.22~24 福岡県福岡市（福岡国際会議場）
・自閉症同胞の疫学的調査：砂原千穂、中野弘克、小瀬朝海、山田敦朗、

松居あり子、乾拓郎、西田寿美、木下利彦

- あすなろ学園における高機能広汎性発達障害の外来グループ療法：山田敦朗、中道寿実、吉田芳子、中村みゆき、西田寿美
・母親の症状を取り込んだ子どものへの援助：仲世古裕子、國枝晃、前田ヤエ子、中村みゆき、西田寿美
- 第33回全国児童青年精神科医療施設協議会 2004.2.18~20 千葉県千葉市
・思春期統合失調症の治療ーデイケアを中心としたかかわりー：山本眞美、砂原千穂、庄山雅子、木川幸子、仲世古裕子、西田寿美
- 第28回日本精神看護技術協会沖縄大会 2003.5.29~5.31 沖縄県宜野湾市
・児童青年精神科におけるかかわりの特徴と男性看護師の役割についての一考察：新田真治
- 第7回日本医療保育学会 2003.8.23~8.24 北海道札幌市
・広汎性発達障害児の家族支援事業（子育てレッスン親クラス）～ミニ運動会・みんなで遊ぼう～を実施して：市川裕子
- 第22回日本思春期学会 2003.8.17~8.18 京都府京都市
・広汎性発達障害児に対する短期集中治療の効果ー入院初期における基本的な生活習慣のアセスメントと指導ー：大西信行、吉井真理
- 第10回思春期・青年期精神科看護学会 2003.11.13~11.14 宮城県仙台市
・自閉症児に対する排泄援助ー排泄の恐怖心から安心へー：西川悠紀
- 第9回日本子ども虐待防止研修会 2003.12.19~20 京都市
・宮田君子：「被虐待児の入院治療」ーA男の事例を通してー
- 第23回日本看護科学学会学術集会 2003.12.7
・児童精神科における看護師の対応に関する家族の意識調査（第2報）ーKJ法による家族の不安、希望、退院前の対応の分析ー：倉田みゆき、大西信行、中山千代子
- 日本医療保育学会全国ブロック研修会 2004.3.28 東京都板橋区
・自閉症の親子プログラムについてー共同治療者としての親のかかわりを考えるー：加納和美

【研究論文】

- shimiz, M., Yanagawa, T, Shimizu, M, et al : Current Child Protection in Asian Countries. Report of the Yasuda Life Welfare Foundation. June 2003.
- 清水將之：アスペルガー症候群の概念 精神科、5(1) : 1 - 5, 2004.
- 西田寿美：「高機能発達障害（自閉症、アスペルガー症候群を含む）」今日の小児治療指針13判489 - 490, 2003. 医学書院
- 西田寿美：「児童虐待の治療の現状」福祉に関する委員会セミナー 児童青年精神科医学とその近接領域44 (2) : 166-173, 2003.
- 西田寿美：「被虐待児と入院治療」臨床精神医学32 (2) : 161-166, (アークメディア) 2003.
- 西田寿美：「あすなろ学園における広汎性発達障害への医療援助について」私の治療法精神治療学 18 (12) : 1459, -1464, (星和書店) 2003
- 西田寿美：「アスペルガー症候群への早期援助と治療」小児科45 (9) : 1605-1610, (金原出版) 2004.

8 清水將之：ひきこもりを考える。精神医学、45(3)、230-234、2003。

【単行本】

- 1 清水將之：「看護大辞典」、医学書院、2003。
- 2 清水將之：人間が歩む発達。中島義明・太田裕彦編、「人間科学の可能性」、pp. 182-195、日本放送出版協会、2003。
- 3 西田寿美：「養護学校、特殊学級で気になる子」、「可能性ある子どもたちの医学と心理学」石川、辻井、杉山編 208 - 214、(ブレーン出版) 2002。
- 4 西田寿美：「高機能発達障害(自閉症、アスペルガー症候群を含む)」今日の小児治療指針13判489 - 490、(医学書院) 2003。

【啓発論文等】

- 1 清水將之：村瀬喜代子「子どもの福祉のこころ」への書評。精神療法、29；492-493、2003
- 2 清水將之：河合隼雄「臨床心理学ノート」への書評。こころの科学105；94、2003。
- 3 清水將之：子どものいのちと養護教諭。子どもと健康、74；4 - 7、2003
- 4 清水將之：広汎性発達障害を見落とさない。子どもと健康、75；58 - 61、2003
- 5 清水將之：養護教諭のトラウマ。子どもと健康、76；58 - 61、2004。
- 6 清水將之：子どもと適応障害。こころの科学、114；24 - 27、2004。
- 7 清水將之：思春期を生きるということ。児童心理、2月号臨時増刊号 2-11、2003。
- 8 清水將之：思春期は始生期から始まる。47(4)；33-38、2003。
- 9 清水將之：わが身を削りゆく娘たち。子どもと健康、73；2-5、2003。

10 年度別入院及び外来患児状況

年度	入院関係調べ						外来関係調べ										児福祉施設 児数				
	総入院 患児数	1 平均 患児数	日 入院 診察 率	入院 比率	新規 入院 患児	退院 患児	平均 在院 日数	病床 利用率	総外来 患児数	1 平均 患児数	外来 診察 率	新規 外来 患児	保導者 職員等	精神 科	臨床 心理	外来 療育		外来 福祉 施設	1 平均 外来 患児 数	医師 診察 率	一般 外来 患児 数
1995 (平7)	34,120	93.2	10,107	16.5	91	95	366.9	89.8	21,140	85.9	5,290	517	758	171	2,297	2,122	2,826	1,143	11,823	35.9	697
1996 (平8)	31,544	86.4	10,390	18.8	93	104	320.2	83.1	23,755	96.9	5,305	569	685	125	2,211	3,321	4,468	618	12,307	51.9	684
1997 (平9)	30,443	83.4	10,546	22.1	141	136	219.8	80.2	21,025	85.8	5,138	472	422	96	2,044	2,683	3,989	1,021	10,770	51.2	637
1998 (平10)	25,740	70.5	11,065	17.3	126	145	189.9	67.8	21,177	86.4	6,694	582	437	102	1,875	2,512	2,891	1,165	12,195	37.6	605
1999 (平11)	23,610	64.5	11,659	13.0	143	140	166.8	62.0	24,011	98.4	5,745	624	280	107	2,544	2,112	3,920	1,163	13,885	37.8	425
2000 (平12)	24,624	67.4	10,968	13.4	144	145	170.4	84.3	23,385	103.6	5,215	697	326	146	3,584	1,602	4,293	1,523	13,911	54.8	429
2001 (平13)	23,748	65.0	14,738	12.5	168	167	141.8	81.3	22,046	90.3	5,786	530	263	226	2,810	1,604	3,926	718	12,408	36.3	407
2002 (平14)	23,785	65.1	18,837	14.9	173	160	142.8	81.4	23,043	94.0	5,693	573	504	216	3,359	1,307	4,321	823	12,313	51.5	411
2003 (平15)	24,412	66.6	20,622	12.0	135	147	173.1	83.6	20,701	84.1	5,371	634	285	252	1,719	2,976	1,309	792	13,368	64.6	565
2004 (平16)	21,352	58.5	21,616	8.2	89	80	252.6	73.1	18,449	75.3	5,318	548	234	205	1,648	1,531	808	454	13,589	73.5	502

注1. 病床利用率については平成12年度より下算定床30床にて計算。
注2. 2004年度、第2棟棟・療育棟を耐震補強工事のため約4ヶ月閉鎖。

1 1 外来患児の診断名分類 (1995年度)

Fコード	F0	F1	F2	F3	F4	F5	F6	F7	F8	F9	G4	Z	その他	計
	器質性精神障害	物質使用による精神障害	統合失調症等	気分障害	神経症性障害等	よる生理的行動障害等	人格障害	精神遅滞	発達障害	及び子どもの行動障害	てんかんその他			
幼児	16	0	1	0	5	0	1	265	1,190	499	30	-	-	2,007
小1~小3	0	0	27	10	42	2	7	168	671	543	42	-	-	1,512
小4~小6	4	0	53	0	101	32	4	106	341	419	34	-	-	1,094
中学生	1	1	547	132	285	86	56	115	459	383	47	-	-	2,112
16~18歳	0	0	499	97	244	59	80	106	409	125	114	-	-	1,733
19歳以上	0	0	575	287	104	7	345	384	946	139	578	-	-	3,365
計	21	1	1,702	526	781	186	493	1,144	4,016	2,108	845	-	-	11,823

1 1 外来患児の診断名分類 (1996年度)

Fコード	F0	F1	F2	F3	F4	F5	F6	F7	F8	F9	G4	Z	その他	計
	器質性精神障害	物質使用による精神障害	統合失調症等	気分障害	神経症性障害等	よる生理的行動障害等	人格障害	精神遅滞	発達障害	及び子どもの行動障害	てんかんその他			
幼児	32	-	2	0	3	0	0	266	1,113	665	33	-	-	2,114
小1~小3	0	-	12	1	47	18	0	181	685	641	34	-	-	1,619
小4~小6	2	-	74	37	208	31	3	164	384	590	31	-	-	1,524
中学生	3	-	481	32	332	70	22	101	511	485	50	-	-	2,087
16~18歳	1	-	449	76	228	75	45	118	404	143	67	-	-	1,606
19歳以上	11	-	542	299	130	8	233	377	927	184	646	-	-	3,357
計	49	-	1,560	445	948	202	303	1,207	4,024	2,708	861	-	-	12,307

Fコード	F8							F9							
	F80	F81	F82	F83	F84	F88	F89	F90	F91	F92	F93	F94	F95	F98	F99
	会話及び言語	学習能力	運動機能	混合性	広汎性	その他	特定不能	多動性障害	行為障害	行為情緒障害	情緒障害	社会機能障害	チック	情他の行動及び	な他にも特定でき
幼児	23	16	1	0	966	180	4	351	38	0	46	24	17	23	-
小1~小3	3	28	1	1	546	91	1	209	92	3	77	53	30	79	-
小4~小6	0	29	0	0	301	11	0	39	77	46	88	74	50	45	-
中学生	1	33	0	0	409	16	0	35	87	65	56	132	2	6	-
16~18歳	2	1	0	0	399	7	0	15	9	8	51	31	0	11	-
19歳以上	0	4	0	0	910	32	0	10	25	2	4	11	0	87	-
計	29	111	2	1	3,531	337	5	659	328	124	322	325	99	251	-
	4,016							2,108							

Fコード	F8							F9							
	F80	F81	F82	F83	F84	F88	F89	F90	F91	F92	F93	F94	F95	F98	F99
	会話及び言語	学習能力	運動機能	混合性	広汎性	その他	特定不能	多動性障害	行為障害	行為情緒障害	情緒障害	社会機能障害	チック	情他の行動及び	な他にも特定でき
幼児	16	6	3	0	937	151	0	456	99	21	62	17	1	9	-
小1~小3	1	33	12	0	549	90	0	285	125	6	101	28	52	44	-
小4~小6	0	38	0	1	323	22	0	85	82	56	122	108	91	46	-
中学生	0	39	0	9	437	23	3	25	83	75	110	122	29	41	-
16~18歳	1	0	0	0	397	6	0	18	14	2	43	55	4	7	-
19歳以上	0	3	1	1	888	34	0	19	18	6	2	17	2	120	-
計	18	119	16	11	3,531	326	3	888	421	166	440	347	179	267	-
	4,024							2,708							

1 1 外来患児の診断名分類（1997年度）

Fコード	F0	F1	F2	F3	F4	F5	F6	F7	F8	F9	G4	Z	その他	計
	器質性精神障害	物質使用による精神障害	統合失調症等	気分障害	神経症性障害等	よる生理的障害等	人格障害	精神遅滞	発達障害	及子どもの行動	てんかんその他	虐待		
幼児	3	0	1	0	7	1	0	256	977	588	15	-	-	1,848
小1～小3	2	1	14	0	15	10	0	214	610	655	42	-	-	1,563
小4～小6	4	0	36	37	165	29	13	140	359	524	24	-	-	1,331
中学生	0	0	299	54	334	60	44	75	418	523	19	-	-	1,826
16～18歳	5	1	304	51	281	10	13	156	400	193	51	-	-	1,465
19歳以上	5	0	463	204	135	46	117	363	897	113	394	-	-	2,737
計	19	2	1,117	346	937	156	187	1,204	3,661	2,596	545	-	-	10,770

1 1 外来患児の診断名分類（1998年度）

Fコード	F0	F1	F2	F3	F4	F5	F6	F7	F8	F9	G4	Z	その他	計
	器質性精神障害	物質使用による精神障害	統合失調症等	気分障害	神経症性障害等	よる生理的障害等	人格障害	精神遅滞	発達障害	及子どもの行動	てんかんその他	虐待		
幼児	3	0	4	1	20	24	2	313	1,082	505	25	-	-	1,979
小1～小3	15	0	26	2	17	10	6	192	652	651	57	-	-	1,628
小4～小6	26	0	46	26	170	22	16	208	438	686	34	-	-	1,672
中学生	12	1	313	101	363	82	48	67	358	667	28	-	-	2,040
16～18歳	9	0	329	95	333	32	34	125	475	266	73	-	-	1,771
19歳以上	12	1	490	281	125	11	109	424	1,049	78	525	-	-	3,105
計	77	2	1,208	506	1,028	181	215	1,329	4,054	2,853	742	-	-	12,195

Fコード	F8							F9							
	F80	F81	F82	F83	F84	F88	F89	F90	F91	F92	F93	F94	F95	F98	F99
	会話及び言語	学習能力	運動機能	混合性	広汎性	その他	特定不能	多動性障害	行為障害	行為情緒障害	情緒障害	社会機能障害	チック	情緒の行動及び	な他にも特定でき
幼児	17	7	0	15	919	19	0	455	51	13	33	24	1	7	-
小1～小3	5	27	6	16	530	43	0	281	133	6	108	78	15	39	-
小4～小6	2	11	3	0	331	12	0	82	148	32	119	75	30	37	-
中学生	1	17	0	0	376	7	2	30	112	43	84	180	19	53	-
16～18歳	4	0	0	0	394	2	0	8	61	27	19	34	7	39	-
19歳以上	0	0	0	0	881	14	0	22	18	1	7	6	0	59	-
計	29	62	9	31	3,431	97	2	878	523	122	370	397	72	234	-
	3,661							2,596							

Fコード	F8							F9								
	F80	F81	F82	F83	F84	F88	F89	F90	F91	F92	F93	F94	F95	F98	F99	
	会話及び言語	学習能力	運動機能	混合性	広汎性	その他	特定不能	多動性障害	行為障害	行為情緒障害	情緒障害	社会機能障害	チック	情緒の行動及び	な他にも特定でき	
幼児	16	9	3	15	1,032	7	0	395	45	8	41	9	6	1	-	
小1～小3	5	40	7	2	540	58	0	360	105	2	97	57	5	25	-	
小4～小6	3	12	4	0	409	10	0	223	174	19	94	98	21	57	-	
中学生	0	22	0	18	310	8	0	55	166	58	87	232	50	19	-	
16～18歳	1	16	0	1	455	0	2	16	76	25	20	66	14	49	-	
19歳以上	1	0	0	1	1,029	18	0	1	26	0	6	14	0	31	-	
計	26	99	14	37	3,775	101	2	1,050	592	112	345	476	96	182	-	
	4,054							2,853								

11 外来患児の診断名分類（1999年度）

Fコード	F0	F1	F2	F3	F4	F5	F6	F7	F8	F9	G4	Z	その他	計
	器質性精神障害	物質使用による精神障害	統合失調症等	気分障害	神経症性障害等	生理的障害等による行動症候群	人格障害	精神遅滞	発達障害	子ども情緒の障害	てんかんその他	虐待		
幼児	24	0	0	1	18	48	1	320	1,521	486	1	-	-	2,420
小1～小3	21	0	1	1	41	12	1	212	780	825	13	-	-	1,907
小4～小6	18	1	12	14	98	42	9	209	631	874	25	-	-	1,933
中学生	19	2	232	111	284	78	23	90	341	731	43	-	-	1,954
16～18歳	18	2	402	87	238	36	22	135	497	269	51	-	-	1,757
19歳以上	17	5	516	251	147	3	89	481	1,225	155	1,025	-	-	3,914
計	117	10	1,163	465	826	219	145	1,447	4,995	3,340	1,158	-	-	13,885

Fコード	F8								F9							
	F80	F81	F82	F83	F84	F88	F89	F90	F91	F92	F93	F94	F95	F98	F99	
	会話及び言語	学習能力	運動機能	混合性	広汎性	その他	特定不能	多動性障害	行為障害	行為情緒障害	情緒障害	社会機能障害	チック	情緒の行動障害及び	なにも特定でき	
幼児	49	13	5	18	1,433	3	0	353	44	3	14	41	20	11	-	
小1～小3	15	30	7	4	669	50	5	524	78	7	54	25	32	105	-	
小4～小6	4	27	0	1	579	19	1	341	168	45	117	78	54	71	-	
中学生	0	6	0	2	323	10	0	119	187	39	115	190	44	37	-	
16～18歳	1	19	0	20	436	18	3	12	85	38	10	74	16	34	-	
19歳以上	2	0	0	0	1,196	25	2	3	80	1	3	23	0	45	-	
計	71	95	12	45	4,636	125	11	1,352	642	133	313	431	166	303	-	
	4,995								3,340							

11 外来患児の診断名分類（2000年度）

Fコード	F0	F1	F2	F3	F4	F5	F6	F7	F8	F9	G4	Z	その他	計
	器質性精神障害	物質使用による精神障害	統合失調症等	気分障害	神経症性障害等	生理的障害等による行動症候群	人格障害	精神遅滞	発達障害	子ども情緒の障害	てんかんその他	虐待		
幼児	14	0	0	1	17	30	3	268	1,475	583	1	-	-	2,392
小1～小3	28	0	0	2	72	55	0	193	837	741	3	-	-	1,931
小4～小6	28	1	10	9	127	33	21	172	722	948	25	-	-	2,096
中学生	33	6	225	64	275	133	31	132	547	793	41	-	-	2,280
16～18歳	1	8	534	146	225	54	28	65	525	332	27	-	-	1,945
19歳以上	37	6	445	195	239	5	72	404	1,253	139	472	-	-	3,267
計	141	21	1,214	417	955	310	155	1,234	5,359	3,536	569	-	-	13,911

Fコード	F8								F9							
	F80	F81	F82	F83	F84	F88	F89	F90	F91	F92	F93	F94	F95	F98	F99	
	会話及び言語	学習能力	運動機能	混合性	広汎性	その他	特定不能	多動性障害	行為障害	行為情緒障害	情緒障害	社会機能障害	チック	情緒の行動障害及び	なにも特定でき	
幼児	35	6	0	6	1,418	10	0	447	37	3	41	41	11	3	-	
小1～小3	24	90	0	11	683	29	0	394	79	33	55	78	38	64	-	
小4～小6	6	24	0	0	655	37	0	353	186	60	129	140	43	37	-	
中学生	6	11	0	1	482	44	3	166	221	63	110	182	13	38	-	
16～18歳	1	8	1	28	422	65	0	32	104	55	20	76	30	15	-	
19歳以上	11	2	1	0	1,212	27	0	12	22	24	7	15	2	57	-	
計	83	141	2	46	4,872	212	3	1,404	649	238	362	532	137	214	-	
	5,359								3,536							

11 外来患児の診断名分類（2001年度）

Fコード	F0	F1	F2	F3	F4	F5	F6	F7	F8	F9	G4	Z	その他	計
	器質性精神障害	物質使用による精神障害	統合失調症等	気分障害	神経症性障害等	よる生理的障害等	人格障害	精神遅滞	発達障害	及子どもの情緒的障害	てんかんその他	虐待		
幼児	2	0	1	5	35	7	10	195	1,530	370	2	2	1	2,160
小1～小3	8	0	0	0	54	13	12	141	808	922	3	0	0	1,961
小4～小6	7	0	9	2	153	22	10	214	796	840	12	1	0	2,066
中学生	16	2	125	66	208	51	27	202	488	805	17	0	0	2,007
16～18歳	2	1	357	82	258	74	25	85	351	280	15	0	1	1,531
19歳以上	9	2	363	175	121	0	28	379	1,174	101	330	0	1	2,683
計	44	5	855	330	829	167	112	1,216	5,147	3,318	379	3	3	12,408

11 外来患児の診断名分類（2002年度）

Fコード	F0	F1	F2	F3	F4	F5	F6	F7	F8	F9	G4	Z	その他	計
	器質性精神障害	物質使用による精神障害	統合失調症等	気分障害	神経症性障害等	よる生理的障害等	人格障害	精神遅滞	発達障害	及子どもの情緒的障害	てんかんその他	虐待		
幼児	0	0	0	9	24	10	0	184	1,684	260	0	1	0	2,172
小1～小3	3	0	0	33	55	46	13	185	964	795	3	2	0	2,099
小4～小6	7	0	1	3	168	27	3	158	680	698	2	0	0	1,747
中学生	7	0	75	73	283	57	19	180	593	713	30	1	0	2,031
16～18歳	8	2	187	141	229	110	63	98	277	327	28	3	0	1,473
19歳以上	9	0	426	124	92	5	25	368	1,207	129	404	0	2	2,791
計	34	2	689	383	851	255	123	1,173	5,405	2,922	467	7	2	12,313

Fコード	F8							F9							
	F80	F81	F82	F83	F84	F88	F89	F90	F91	F92	F93	F94	F95	F98	F99
	会話及び言語	学習能力	運動機能	混合性	広汎性	その他	特定不能	多動性障害	行為障害	行為情緒障害	情緒障害	社会機能障害	チック	情緒の行動及び	な他に特定でき
幼児	21	0	7	0	1,489	13	0	291	9	3	23	36	8	1	0
小1～小3	9	43	2	0	735	19	0	552	79	75	48	114	33	21	1
小4～小6	9	22	3	7	693	61	1	362	156	47	89	101	40	46	0
中学生	5	11	0	1	434	37	0	127	178	40	132	291	7	30	0
16～18歳	0	0	0	21	325	5	0	37	51	80	27	76	5	4	0
19歳以上	1	2	0	0	1,097	74	0	7	23	14	7	15	1	10	24
計	45	78	12	29	4,773	209	1	1,376	496	259	326	633	94	112	25
	5,147							3,321							

Fコード	F8							F9							
	F80	F81	F82	F83	F84	F88	F89	F90	F91	F92	F93	F94	F95	F98	F99
	会話及び言語	学習能力	運動機能	混合性	広汎性	その他	特定不能	多動性障害	行為障害	行為情緒障害	情緒障害	社会機能障害	チック	情緒の行動及び	な他に特定でき
幼児	16	11	9	10	1,617	21	0	189	0	1	29	32	6	3	0
小1～小3	1	21	5	18	891	28	0	502	38	31	94	62	54	14	0
小4～小6	7	21	1	7	601	43	0	302	103	59	63	86	28	57	0
中学生	2	24	0	0	540	27	0	116	178	27	95	248	4	45	0
16～18歳	0	0	0	1	266	10	0	44	60	39	52	83	17	32	0
19歳以上	0	0	1	6	1,145	55	0	14	30	16	11	19	1	13	25
計	26	77	16	42	5,060	184	0	1,167	409	173	344	530	110	164	25
	5,405							2,922							

11 外来患児の診断名分類（2003年度）

Fコード	F0	F1	F2	F3	F4	F5	F6	F7	F8	F9	G4	Z	その他	計
	器質性精神障害	及び物質使用による精神障害	統合失調症等	気分障害	神経症性障害等	生理由る行動症候群	人格障害	精神遅滞	発達障害	及び子どもの行動障害	てんかんその他	虐待		
幼児	2	0	4	10	26	6	4	182	1,954	313	0	0	0	2,501
小1～小3	7	0	1	57	42	6	0	199	1,241	785	12	4	1	2,355
小4～小6	10	0	11	25	179	15	6	141	778	702	12	3	0	1,882
中学生	1	3	114	56	320	39	15	200	624	768	14	1	0	2,155
16～18歳	12	0	184	65	227	37	39	91	424	324	26	0	0	1,429
19歳以上	10	5	535	197	176	10	12	332	1,250	222	297	0	0	3,046
計	42	8	849	410	970	113	76	1,145	6,271	3,114	361	8	1	13,368

11 外来患児の診断名分類（2004年度）

Fコード	F0	F1	F2	F3	F4	F5	F6	F7	F8	F9	G4	Z	その他	計
	器質性精神障害	及び物質使用による精神障害	統合失調症等	気分障害	神経症性障害等	生理由る行動症候群	人格障害	精神遅滞	発達障害	及び子どもの行動障害	てんかんその他	虐待		
幼児	0	1	2	1	12	0	2	139	2,247	238	1	0	1	2,644
小1～小3	1	1	2	0	68	6	8	161	1,305	620	8	0	2	2,182
小4～小6	13	1	7	25	173	7	0	186	959	902	10	4	0	2,287
中学生	5	2	64	38	218	18	18	202	728	723	11	0	0	2,027
16～18歳	14	2	97	53	258	21	31	157	485	331	26	1	0	1,476
19歳以上	19	14	466	178	205	6	18	404	1,203	260	267	12	0	3,052
計	52	21	638	295	934	58	77	1,249	6,927	3,074	323	17	3	13,668

Fコード	F8								F9							
	F80	F81	F82	F83	F84	F88	F89	F90	F91	F92	F93	F94	F95	F98	F99	
	会話及び言語	学習能力	運動機能	混合性	広汎性	その他	特定不能	多動性障害	行為障害	行為情緒障害	情緒障害	社会機能障害	チック	情緒の行動及び	なにも特定でき	
幼児	7	6	15	9	1,903	14	0	238	5	5	25	24	10	6	0	
小1～小3	3	21	6	12	1,162	33	4	535	41	45	79	52	20	12	1	
小4～小6	9	30	1	23	700	14	1	347	61	54	55	97	34	52	2	
中学生	0	17	0	0	583	24	0	142	182	43	87	273	10	31	0	
16～18歳	2	1	0	0	399	22	0	41	39	23	46	130	20	25	0	
19歳以上	1	0	0	2	1,186	61	0	23	24	35	11	89	4	7	29	
計	22	75	22	46	5,933	168	5	1,326	352	205	303	665	98	133	32	
	6,271								3,114							

Fコード	F8								F9							
	F80	F81	F82	F83	F84	F88	F89	F90	F91	F92	F93	F94	F95	F98	F99	
	会話及び言語	学習能力	運動機能	混合性	広汎性	その他	特定不能	多動性障害	行為障害	行為情緒障害	情緒障害	社会機能障害	チック	情緒の行動及び	なにも特定でき	
幼児	0	3	16	4	2,213	11	0	141	5	15	21	38	12	6	0	
小1～小3	5	27	14	11	1,236	12	0	407	28	50	49	54	19	13	0	
小4～小6	9	30	6	7	905	2	0	452	65	127	104	91	24	38	1	
中学生	4	18	1	7	683	15	0	121	154	47	69	290	4	38	0	
16～18歳	1	1	0	0	459	24	0	36	27	8	40	189	5	26	0	
19歳以上	3	0	0	11	1,138	51	0	21	23	44	13	96	18	9	36	
計	22	79	37	40	6,634	115	0	1,178	302	291	296	758	82	130	37	
	6,927								3,074							